

巨人・渋沢栄一の「富を築く100の教え」

渋澤 健著

講談社

定価(税別)
1500円

著者は日本近代経済社会の立役者ともいわれる故渋沢栄一翁の5代目の孫にあたる渋沢健氏である。日本海事新聞社の関連会社エアコムが発行している財界人文誌「ほぼづゑ」の執筆メンバーでもある。

約70人を擁する「ほぼづゑ」のメンバーは財界長老が多くを占めているので、まだ50歳前の渋澤氏は若手中の若手である。それだけにメンバーの期待するところは大きいと思われる。

著者は小学校2年の時に東京銀行に勤務する父親の関係で米国に渡り、テキサス大学を卒業、UCLA経営大学院でMBAを取得、以来外資系金融機関を経て2001年に投資コンサルティング会社シブサワ・アンド・カンパニーを設立した。

その折「渋沢栄一という人は500社も会社を立ち上げた」と思い起こし、父の元

書評

評 高明 大山

のくえ 栄一・渋沢 巨人・**富を築く**の100の教え
Walk the Path for Lifelong Wealth and Wellness
渋澤 健

日本資本主義理解に格好の書

に残されている電話帳何十冊分にもなる伝記資料をひも解きはじめて。しかし、帰国子女である著者にとって資料の解釈は難解で、その作業には父親の助力が必要であった。またその父も「栄一さんは偉い人であるとは知っていたが、ここまで偉いとは思わなかった」と再認識したとい

の材料であろう。

現在の世界金融恐慌の中、著者がそのDNAと米国での勉強を基盤に、自分の投資

コンサルティンク会社をいかに創造してゆ

くのか。今後の活動と方向性に大変興味を覚えるところである。

(日本海事新聞社社長)

う。

「なぜ、いま渋沢栄一なのか」という30分ほどの冒頭部分だけでも大変示唆に富む内容である。その後の各章に列記されている「100の教え」は渋沢翁の「論語とソロバン」という日本資本主義を具体的に理解するには格好